

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079600245		
法人名	医療法人 古川病院		
事業所名	グループホーム 永井の里		
所在地 (電話番号)	田川郡川崎町川崎4427 (電話) 0947-72-8201		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成20年2月20日	評価確定日	平成20年3月19日

【情報提供票より】(H20年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 10人 非常勤 7人 常勤換算	12.6人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / (単独)	新築 / 改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,350 円		

(4) 利用者の概要 (1月31日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人古川病院 社会保険田川病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな山間に囲まれた環境に立地し、2ユニットそれぞれが独立して建築されている。清潔感に溢れ、掃除が行き届いたホームである。母体である医療機関との医療連携体制が確保され、安心して生活ができています。母体の機能を活かし、専門家によるリハビリが定期的に行われ、機能の低下予防が図られている。又、理学療法士や看護師の訪問もある。スタッフの教育においても、計画的に内部研修が実施され、外部研修も段階に応じた研修への参加ができ、質の高いサービス提供の確保に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム運営理念の提示、身体拘束や玄関の施錠をしない取り組み、注意の必要な物品の管理、家族への情報提供、地域との交流等意欲的に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の実施及び外部評価を受けることの意義を理解し、管理者と職員全員で取り組んでいる。改善に対する取り組みとして、評価項目毎に担当者を決め、責任を持たせ計画的に解決していくなど、工夫に期待する。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議へは自己評価の報告も行っている。また、この会議により災害時における地域の消防分団の協力を得られる体制ができています。自治会や老人会への参加の意思も会議を通して区長へ行っている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>利用料金を母体窓口へ直接支払うシステムをとることで、月に一度は必ず家族が来所する機会を作っている。その折に利用者の暮らしぶりや健康状態等について伝えたり、意見を聞いたりしている。定期的な便りや行事への参加等により、家族との連携を図っている。又、家族の意見の反映ができるように母体の病院が窓口となっている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の小中学校の行事や町の祭りに参加している。地区のカラオケ同好会の方々との交流もある。又、ホームの行事への参加を呼びかけている。自治会や老人会への参加の意思表示は運営推進会議を通して行っており、検討中である。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を目指した内容となっており、わかりやすく事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングで繰り返し確認し合うようにしている。掲示してある理念を日々念頭において接するように心がけている。職員の採用時には、理念の説明を行い理解してもらおうようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小中学校の行事や祭りに参加している。地区のカラオケ愛好会の方々との交流もある。当グループホームへ歌手を招待し、地域の人へも参加の呼びかけを行っている。自治会、老人会への加入の意思は伝えており、現在も検討中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で自己評価に取り組み、運営推進会議においても報告し、評価を生かして改善に取り組んでいる。		外部評価の結果を踏まえ取り組んでいるが、記録されておらず工夫が望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では外部評価結果も公表している。また、自治会や老人会への参加の意思表示を、会議を通して行っている。		公表後の取り組み状況など、継続して報告していくことが望まれる。又、運営推進会議を活用し、取り組みをモニタリングすることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要時や、要望があれば行き来しており、市町村と徘徊ネットワーク等の取り組みを展開している。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修は実施していないが職員にパンフレットを配布し、ミーティングで機会あるごとに説明している。パンフレットは閲覧できる場所に設置され、入居時に制度の説明を行っている。		外部の研修にも参加する機会を持ち、必要時に全ての職員が支援できることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に便りやお知らせ情報を報告している。来訪時は利用者の状況について話している。遠方の方へは、電話にて連絡を取り情報提供を行っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	母体の病院窓口にも苦情窓口があることを説明し、家族の意見が反映しやすい環境を作っている。		意見を表明しづらい家族もいることを想定し、アンケートを行う等の工夫に期待したい。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職が出ないよう勤務体制を考慮している。代わる場合は、利用者、家族へ紹介を行い、問題のないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人代表・管理者は、採用にあたり特に制限を設けず、意欲のある方を対象としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者を人生の先輩と思い、言葉遣いにも十分注意している。独自に「介護の指針」を作成し、ミーティング等でも啓発に努めている。		外部の人権教育等の研修へ参加することも望まれる。
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、計画的に参加できるようにしている。又、内部研修においても独自の研修計画をたて実施できている。他のスタッフへも周知できるように研修記録を作成している。各自の段階に応じた研修にも参加できている。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークへの参加はないが、研究発表等に参加し質の向上を目指している。		他の事業所との連携を図ることにより幅広い情報交換を行い、共に質の確保に努めていくことが望まれる。
<b>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所の活用等により徐々に馴染める工夫を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であるという考えのもとで、掃除や洗濯物のたたみ方を教えてもらう等、生活の中で一緒に関わり支えあう関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族より情報を得たり、日々の支援の中で情報交換を行い意向の把握に努めている。趣味の継続が図れるよう場面づくり等支援している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、職員を含めた話し合いのもとで計画を作成している。日々のミーティングで利用者の情報をもとに、3カ月に1回はモニタリングを行い、プラン作成を行っている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	問題提起時や状態変化時は、関係者と話し合い計画変更を行っている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、医療処置を受けながらの生活の継続、重度化した場合や終末期の対応も支援することができる。又、買い物・馴染みの美容院・外出などへの同行も支援している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっており、受診や通院介助は希望に応じて対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	介護の指針の中に終末期についても記載している。入居時に説明を行い、必要時は全職員での話し合いのもとで方針の共有を図る体制となっている。		関係者で方針や支援の具体的内容をマニュアル化することが望ましい。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護の指針の中で取り決めを行っている。定期的に個人情報保護委員会を開催し、全職員へ秘密保持の徹底が図られている。利用者に対しては、プライバシーを損ねない対応を心掛けている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴は本人の希望する時間に支援を行っている。一人ひとりのペースを大切に、意向を確認しながら支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支援において、職員の声かけや周りの人の協力のもとでその人にあった支援をしている。希望に応じた物を献立に取り入れたり、一緒に畑で収穫したものを利用し調理している。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に毎日入浴ができ、希望や体調にあわせて個別に入浴できるよう支援している。入浴を拒む人に対しても声かけや言葉の工夫により同意を得て支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントや日々の支援の中で情報を確認し、個人にあわせて楽しみ事や役割を作りだす職員の働きかけがある。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の生活の中で、20分位は日光浴をプランの中に取り入れている。希望に応じて買い物の支援を行っている。病院独自のリハビリ外来通院にて気分転換も図られている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者一人ひとりの外出の癖や傾向を掴んで対応している。センサーを利用し、鍵をかけない自由な暮らしを心掛けている。日中は、近所の人にも理解を求め連絡してもらえる関係を築いている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、火災訓練も年2回消防署の協力を得て利用者と一緒にしている。設備の点検は年1回行っている。地域の協力体制については、行政区の消防分団の協力も得られる体制ができている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者が栄養士の資格を持っている為、的確な栄養摂取や水分量が確保され、ケアプラン実施表に記入し把握できている。状態に応じた調理の工夫やカロリー計算ができている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や装飾品を飾る工夫がされている。不快な臭気はなく清潔感あふれたホームとなっている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にあわせて使い慣れた物や好みのもを活かした空間が作られているが、馴染みの物が少なく感じる。		家族からの情報提供により、馴染みの物を積極的に利用することに期待する。